

小学校

学年	教科等	単元名等	内容
1	生活	にこにこ大作戦	自分もまわりもにこにこなるためには、どうしたらよいか、考える。その中でお手伝いが出てきた。いろいろなお手伝いがあり、どのようなお手伝いをやっているかを聞くと、男女に違いがあった。 →男の子でもぎょうざを作っている子 洗い物をしてみようという子がいた。
	生活	お仕事名人になろう	・家族が家の中で、どんな仕事をしているか調べて、授業の中で発表した。すると、仕事のほとんどを母親がやっていることに気づいた。 ・自分たちができる仕事があったら、それを手伝って家族みんなで協力していくことの大切さを考え、実践につなげた。
	生活	みんな大好き	①家族に目を向け、「どんなところが好きなのか」「自分とどんな関わりをしているのか」などの視点から、家族の中から一人選んで紹介し合う。 ②家族の仕事について家の中でどんなことをしているか調べる活動を通して、一人一人の役割に目を向ける。 ③自分の家庭内での役割に気づき、自分が「できることや、お手伝いを進んでやろうとする態度を育てる。 ○お父さんの仕事、お母さんの仕事は、男女の区別がないことに気づく。 ○お母さんでなければできない仕事、お父さんだからこそできる仕事があり、男女の特徴やよさを生かして、家族のために協力し合う姿を出し合った。
	生活	にこにこ大作戦	「家の仕事には、どんなことがあるだろう」と投げかけたところ、家庭には、いろいろな仕事があり、それらの多くをお母さんが担っていることに気づいた。 ・「どうしておかあさんばかりなのかな」とたずねると、「お父さんは帰りが遅い」「お父さんは仕事が忙しい」など、父親の方が長時間仕事に拘束されていること、そのために、家庭の仕事ができないと思っている子がほとんどだった。 ・それでも休日は、「ごはんを作る」「そうじをする」など、最近のお父さんたちは、家事育児に関わろうと努力していることがうかがわれた。 ・1年生の子どもたちの中には、男だから、女だからということではなく、お互いの立場を尊重し、家庭の仕事を分担していくことが大切であり、だからこそ、自分たちも、家でできる仕事をやろうという気持ちが芽生えたように感じた。
	朝の会		資料1 「こんな友だちがいいな」どんな友達がいいと思いますか。⑩ある選択肢の中に「男の子でも女の子でも仲間に入れてくれる。」を選んだ子が、15名いた。選んだ理由を紹介し合い、男女関係なく、誰とでも仲良くすることの大切さについて話した。
2	朝の会		色からイメージすることを聞いた。赤…太陽、血、夕焼けetc青…青空、富士山、氷etc次にどちらが好きか聞いた。赤…男子9名女子2名 青…男子6名女子13名だった。色に関して男女の意識があると思うのは、大人だけなのかなとも感じる結果だった。
	朝の会		道徳の授業で扱った「女性のトラック運転手さん」から、男女の仕事や役割について話をする場につなげた。 男女の役割が真逆になっている「新・ももたろう(参考文献:「一寸ちゃんがゆく」奥山和宏著)」を読み聞かせた子どもたちは、「変だ」「逆だ」を連発。「おじいさんは洗濯をしないし、おばあさんは山へしばかりに行かない。」「鬼を退治するのは男の子じゃなきゃ変だよ。」という反応だった。そこで本当にそうなのかを考えさせた。始めのうちは、思ってもいなかったことを聞かれた感じで戸惑っている様子であったが、じっくり考えることで、「そういえば、うちの父さんは毎日洗濯をしているな」「お父さんにチャーハン作ってもらったことがあるよ。お父さんのもおいしかったよ」「そういわれてみれば、女の子が鬼を退治したっておかしくないよね。」などと話し始めた。最後に男女の役割に決まりはないのだから、男女の別なく自分が良いと思ったことをどんどんやればよいのだということをお伝えした。
	生活科	「おもちゃランド」	おもちゃランドのグループ分けの際に、お手玉は女子、車は男子というような考え等で、男子は男子、女子は女子というグループ編制をしようとした。その際に、車作りは男子だけがやるものなの?お手玉は女の子だけの遊びなの?と考える機会をとった。そして、男子だから、女子だからではなく、自分がやりたいものを選べばよいということに気づくことができた。

小学校

学年	教科等	単元名等	内容
2	学活	いろいろな遊び	資料1本時の目標:「男と子がすること」「女の子のすること」という考えにこだわることなく、自分の思いを大切に、好きなことをやろうとする気持ちをもつ。
	学活	どっちにするの?どっちがいいの?	・いろいろな職業や家事を紹介し、それらを、男の子・男の人も女の子の人も、女の子の3つに分けていった。話し合いの中で、男だから、女だから、お母さんだから、お父さんだからではなく、男女関係なくやりたいことをやったり、男女協力していったりすればよいことに気づいていった。
	朝の会		読み聞かせ「すみれちゃんは1年生」を読む (国語で勉強した「わたしはおねえさん」のシリーズで1年生になったすみれちゃんがすみれ色のランドセルを背負って張り切って入学式へいくお話)  ・すみれちゃんのすみれ色のランドセルについて、子どもたちからきれいな色だという感想が出た。クラスみんなのランドセルの色をみんなで見ていた。 ・その中で「本当は違う色がよかったのに、お母さんが「女の子は赤色だよ」と言って赤にされた。」と言った子の発言から、女の子の色があるのかみんなで考えてみた。 ・男の子でも、赤い服を着ることもあるし、赤いランドセルでもいいという意見が多かった。ただ、模様のない赤いランドセルならよいが、ハート刺繍のあるランドセルは嫌だという意見もあった。また、ピンクについても、薄いピンクなら好きと発言する男の子もいた。 ・反対に、男の子の色があるかどうか聞いてみると、女の子はどの色も関係なく選んでいるようだった。 ・男の子の女の子ということとは関係なく、好きな色を好きなように選べばいいということがわかった。
3	朝の会		ジェンダーフリーの絵本の読み聞かせをした。 自分の周りや社会には、男女の性役割に対する固定した考えがあることに気づくとともに、「男らしさ」「女らしさ」ではなく自分らしくそれぞれの個性を大切に生きていくことが大切であることを学んだ。務読み聞かせ後、自分たちの生活でも同じような思いをしたことがあるか話し合う時間ととって、普段感じていることを交流した。先入観で男女の役割を区別するのではなく、一人ひとりの個性を生かしながら協力して生活していくことが大切であると、改めて考える時間となった。
	道徳	赤いランドセル	資料2 3 本児の目標:新1年生男子の「たかし」に、赤いランドセルを買うべきか、他の色を勧めるべきか、自分の判断基準をはっきりさせて話し合い、異なる考えに触れて自分の考えを見つめ直すことを通して、より高い道徳的な判断を下すことができる。
	道徳	笑顔でV作戦	(活動内容) ・それぞれの家庭で、家族に誰がいて、それぞれの役割がどうなっているのかを思い出す活動を導入とした。 ・教師による資料「笑顔でV作戦」の範読を聞き、資料中の「わたし」が5人家族であること、おばあさんがけがをして入院してしまって元気がないこと、母親が病院と家庭を抱え込んで疲れ切っていることをおさえた。 ・そんな祖母や母に対して、弟が「笑顔でVだよ」と言ったことから、「父」「弟」そして、「わたし」の考えた「V作戦」とは何か話し合った。 家族のために、子どもたちは、自分に置き換えて(何ができるか)考えていた。その中で、「おとうさんも料理をすればいい」「みんなで洗濯物をたためばいい」という意見がでてきた。 ・最後に、自分を支えてくれているのは、家族であり、男女に関係な家族で助け合って生活していくことが大切であるということにつなげた。
	道徳		「どの色のランドセルがいいかな」12色の色紙を用意し、その中から自分が好きなランドセルを選んだ。男女に選ぶ色の違いが見られた。「男の子がピンクを選んだらどうか」と投げかけると、「おかしい、ピンクは女の子の色だ。女みたいだ。」という反応。そこで、外国トイレのマークで、男子が赤になっているものを見せ、男の色、女の子の色という決め方はおかしいのかな。と投げかけた。プロサッカーチームや野球のユニフォームにも赤はある。何色が男の色と決まっているわけではない。ランドセルは… と考える場をもった。

小学校

学年	教科等	単元名等	内容
3	学活	班替え席替え	席替えの方法について話し合った。男女別ではなく、男女一緒にいた方が楽しいし、お互いの立場で意見を出すことができることや協力できることを確認できた。
	帰りの会		帰りの会で将来の夢についての話題になった。保育士は、女性の職業のイメージが強いが、男性もいることが話題となり、職業に男女の別なく、お互いのよさを出し合うことの大切さを知った。
	生活		<b>資料4</b> 「だれとでも・だれにでも・自分から」を合言葉にした仲良し作り 年間を通じて子ども同士が関わる場を設定することで、子どもたち自身が友達と仲良くしたり、気づいたことを進んでやったりすることのよさに気づき、自己肯定感を高めることにつながられた…という取り組み
	休み時間		かるたでお粗暴と集まったメンバーが、男子ばかりの5人だった。「女子もいないとつまらないね。」と、女子の存在を認める発言が出た。そこで、女子の存在を認める発言が出た。そこで、女子にも声をかけ、男女混ざって、楽しく遊ぶことができた。
	学活		当番活動で好きな色を選んだとき、男子がピンク女子が青などの色を選んでも子どもたち同士でも素直によさを認め合うなどの姿が見られた。
	道徳	「お母さんの入院」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の仕事について誰がどんな家事をしているのか話し合った。</li> <li>・お父さんが、料理・お風呂掃除・洗濯の取り込みをしてくれることがあることなどを出し合った。</li> <li>・お母さんが仕事で、おばあちゃんのご飯や食事の片付けをする家が多いが、男女を問わず家族が忙しい時や病気の時は、家事を手伝ったり、自分にできることは、自分でやることの意味を、資料の主人公の行動を通して気づく子が多かった。</li> <li>・最後にお父さんの作るおでんがとてもおいしいというある家族の話を紹介し、楽しそうに料理を作る父親の写真を紹介し、男子も女子も家事の経験を得意そうに紹介し合っていた。</li> </ul>
4	学活		<b>資料5</b> 今月の歌「トレロカモミロ」の歌詞について考える。 「男の中の男」とは、どんな人だろう。「女の中の女」と言ったらどんな人だろう。入れ替えたらどうだろう。
	体育	体の発達	男女の体つきや成長の違いが話題になった。お互いの違いを理解し、尊重し合うことを確認できた。
	体育	心と体の成長	大きくなったねわたしたち ①個人差はあるけれど、みんな成長している(1年生からの身長伸び)②体の成長には、男女の特徴がある。 ③男の子と女の子の違いを知って、お互いに助け合っていくことが必要 →みんなが気持ちよく生活したり、協力して生活したりするためには、男女の違いを正しく理解した上で互いに補い合っていくことが大切である。学習を通してお互いを尊重し合い協力して生活していこうという気持ちを育む。
	学活	家事は誰の仕事だろう	家で、家事をしている人について出し合った。ほとんどの家事を母親や祖母等、女性がしていることに気づいた。また、「男は外で仕事、女は、家事」という分担が今も続いていることや、多くの母親は外でも仕事をしているにもかかわらず、家事もほとんどやっていることに気づいた。その後、「家事は誰の仕事だろう」という学習問題で考えた。そして、家族が協力して家事を行い、助け合ってせいかすすることが大事だと話し合われた。
5	学活		・冬休み前に「家族の一員として」働くことの意義を話し、父母の家庭での仕事を伝え合った。
	道徳	絵地図の思い出(男女の助け合い)	<b>資料7</b> ・導入で、普段の生活で、男女のことを意識して行動したことがないか思い出し、価値への方向付けをした。男女で協力することの大切さに気づいていく主人公の気持ちを考えるを通して、男女互いに信頼し、協力し合ってもに伸びようとするむ心情を育てることをねらいとした。
	社会	自動車会社を訪ねて	「働く人にとってやさしい環境」とはどういうものか話し合った。年齢・、性別、障害のある人の区別なく、誰でも働ける環境であると気づけた。

小学校

学年	教科等	単元名等	内容
5	道徳		資料6 三時間に分けて授業を行った。 ①性別に対する不当な概念によって、苦しんでいる人がいることに気づく。 ②自分らしさは、性別によるものではなく、一人の人間としてのよさであることに気づくことができる。 ③生物学的な性差を思い出しながら、男女が協力するために大切なことについて考えることができる。
	社会	運送に関わる仕事	ドライバーに男女の数の差がなくなってきたことに子どもたちが気づいていた。
	家庭科	家族とともに過ごす時間	①家族とともに過ごす時間は、どのくらいあるかな。②家の仕事調べ ③自分にできる仕事をやってみよう ④家族みんなが役割分担をして仕事をすると、家族の団らんの時間がふえるよ。→家族みんなが気持ちよく生活するためには、男女の性別に関わりなく、自分ができることや自分が得意なことを見つけて家事を分担することが大切であることに気づかせる。
	家庭科	「家族の仕事」	家での仕事を見つめ、家族の中で、誰がやっているのかを調べた。母、祖母がやはり多かったが、洗濯など、父親や祖父がやっていたところも少なくなかった。母親が働いている家庭がほとんどで、皆で協力してやろうとする意識が家庭の中であることが分かった。そして、自分ができることは何か考え、実践することを通して、男女関係なく家族の一員として協力することの大切さに気づくことができた。
6	社会	明治・大正の選挙権拡大	1925年と1946年の男女の選挙権の在り方から、男女平等絵の道のりを学習することができた。
	学活		席替えや係、学級委員では、男女を選ぶことをしていない。選び方や決め方は変わるが、男女の別や人数は入れない。男女の数が話題になったときにも、話し合いで関係ないとしている。
	道徳	どんな人に向いている？	様々な仕事は、「男の人」「女の人」のどちらに向いているのか、または、「どちらともいえない」かを選択させた。これらを基に、話し合いを行う上で、性別ではなく、個人の特性によってどんな仕事も選択していく自由があることに気づくことができた。
	国語	平和について考える	「パキスタンで女性が教育を受ける権利を訴え、イスラム武装勢力に頭部を撃たれたマララ・ユフズザイさんが、肉声の声明を出せるほどに回復した」ことを取り上げ、男女別に教育を受ける権利があることを話し合った。
	朝の会		進路指導の際、将来の職業選択は、男だから、女だから、という先入観なしでやりたいことに向かって指導していくようにした。
	社会	原始女性は太陽であった…	平塚らいてうについて学習した時、女性軽蔑の考え方に触れ、当時の女性に対する社会の考え方について知った。また、女性に参政権がなかったことに驚き、現代ではどうだろうかと問いをもたせながら、学習を進めた。
	家庭科	「考えよう これからの生活」	教科書の挿絵から掃除機を使って掃除をするお父さん。食事の湯飲みにお茶をそそぐおじいちゃん、エプロンをし、配膳するお父さん、フライパンを持ち料理をするお兄ちゃん、一緒に食事の支度をするお母さん、妹… 家族が皆で食事を分担することのよさを効率の面だけでなく心の面からも感じた。
5・6	帰りの会		男子児童を「～さん」と呼んだところ、女子児童が笑った。そこで、「〈～さん〉と呼ぶのはいつか」考えた。社会一般では当たり前、改まった場面でもある。「～さん」とよぶのは当たり前であることを確認、指導した。
5・6	総合的な学習	将来の自分設計	「わだじまんまつり」の発表に向けた取り組み ・自分のよさ・将来どんな大人になりたいか・どんな職業につきたいか・どのように調べていくのか(これからの自分)この5つの質問について考えることで、今の自分を振り返り、将来の自分について考えさせた。
特活	クラブ		茶道クラブの作法を通して、相手を思う「おもてなし」の気持ちが育った。